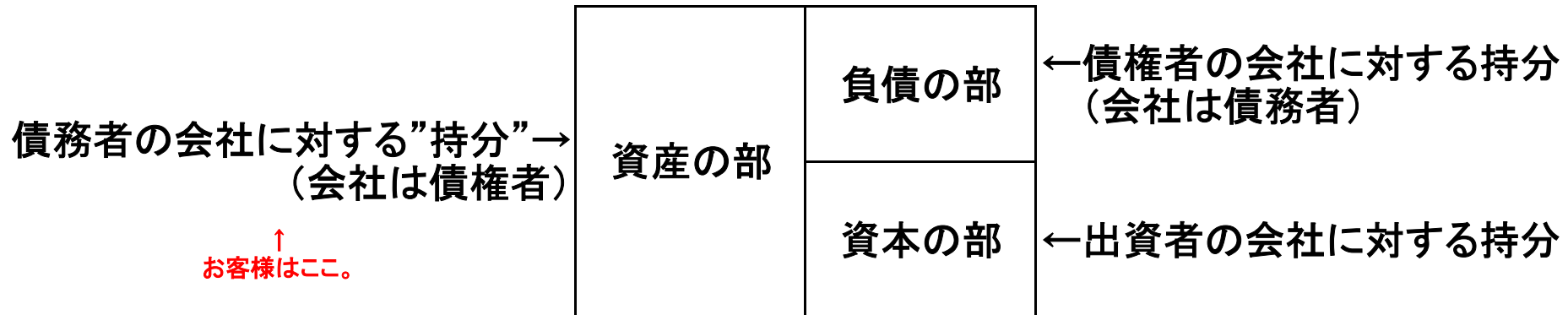


取引の相手方から見た場合の貸借対照表の概念図

貸借対照表



注:

貸借対照表を裏から見てみました。

会社に対する権利や義務の価額のことをここでは漠然と「持分」と表現しました。

資本の部はそうでもありません(結局、株主が会社を経営しているからでしょう)が、資産の部と負債の部は取引の相手方から見ると随分違って見えるでしょう。

「資産の部」が「債務者の持分(義務)」を表すわけです。

先ほど「お客様資本」という言葉が載っていましたが、お客様は資本ではなく実は資産ではないかと感じられ、

「お客様は資産です。(The customer is always assets.)」などという冗談が思いつきました。

まじめに書きますと、お客様は会社の貸借対照表の「資産の部」に計上されているだけの金額を会社に支払わねばなりません。

会社の貸借対照表の「資産の部」がお客様の義務の価額を表すのです。

「お客様は債務者です。(The customer is always debtors.)」と言わねばなりません。

「A customer's liability is to pay out for a company.(お客様の義務は会社へ代金を支払うことだ。)」ということになります。

会社にとってお客様とは、利益の源泉であり、経営を支える根幹であり、そして会社の債務者であるわけです。

取引の相手方から会社の貸借対照表を見ますと、「商取引の対称性」というものが見えてくるのではないかと思います。

「裏帳簿」ならぬ「裏(から見た)貸借対照表」と言ったところでしょうか。

まあ冗談ですが。